

アジア学叢書

第49回配本 ■ 全5巻(第343~347巻)

言語2(マレー語)編

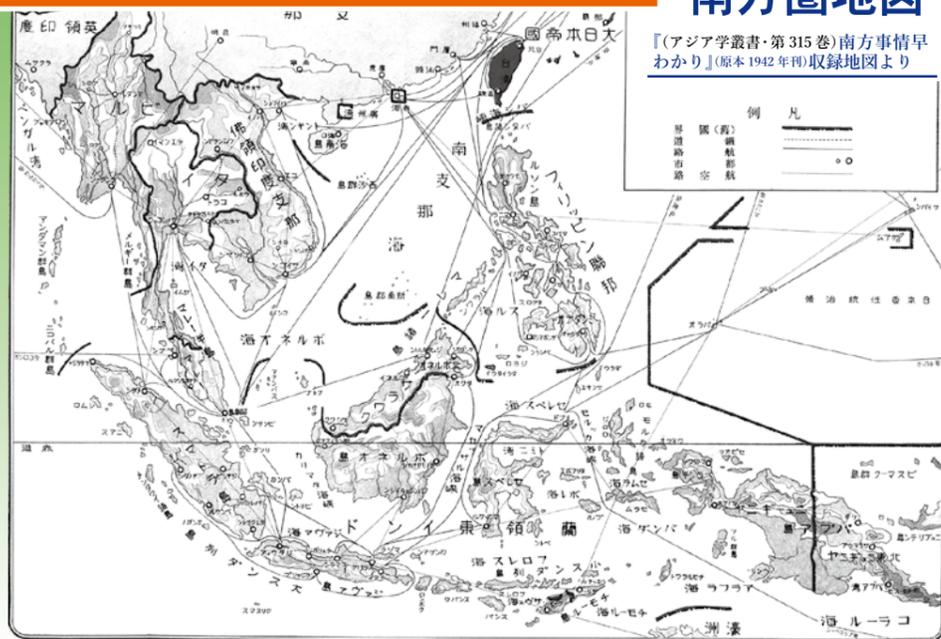
言語には
歴史が
刻印されている。

イギリス領
オランダ領
そして日本領土…
しかし、人々は変わらず
“マレー語”で
生きていた。

戦前期日本の
多量で分厚い
マレー語辞書
文法書群から

現地での永年にわたる
生活・事業・経験
教授研究に裏打ちされ
それまでの欧米研究を
追隨するだけでなく
“生きた”ことば・文化を
記録した精華

仏教、イスラム教の渡来に加え、タミール語、
ペルシャ語、ギリシャ語、スペイン語、さらに
英語、オランダ語等を、マレー語は取り入れてきた。



南方圏地図

第一節 アラビア字體のアルファベット

アラビア字體	音	ローマ字體
ا	alif	a
ب	ba	b
ت	ta	t
ث	tha	th
ج	jim	j
چ	cha	ch
ح	ha	h
خ	kha	kh
د	dal	d
ذ	dzal	dz
ر	ra	r
ز	za	z
س	sin	s
ش	shin	sh
ص	sad	s
ض	dzad, dlada	dz, dl
ط	ta	t
ظ	dza, tla	tz, tl

第346巻より

◆所謂「表南洋」たる蘭領印度其他の地方と、吾日本との関係は、貿易の伸張と企業の進展に伴ひ、益々深密ならんとしつゝあり。而して馬来語は、表南洋に於ける Lingua Franca(共通語)として各方面に通用性を有す。
—第343巻「序」南洋協会台湾支部(昭和10年8月)より

◆馬来半島及全東印度即ち、スマトラ、ジャワ、セレベス、ボルネオ、ニューギニア其他幾千の島嶼は、其の広袤250万平方方キ、其の地域内に居住するマライ語使用人口数は実に7千万有余の多きに達するのであつて、是れ誠に世界史始まつて以来の一大盛時であり、また偉観である。
—第347巻「自序」鶴岡一雄(昭和18年10月)より

学術資料出版
大空社出版

アジア学叢書

第49回配本
全5巻(第343~347巻)

*2021年4月刊

言語2(マレー語)編

全5巻揃 定価123,750円
(本体112,500円+税10%)
A5判・上製・クロス装・総約2620頁
全5巻セット ISBN 978-4-908926-92-1

*各巻分売可

343. 馬来—日本語字典	パチー・ビン・ウォンチ、平岡閔造 著	910頁	978-4-908926-87-7	定価46,200円 (本体42,000円+税10%)
344. 实用馬来語辞書	増淵佐平 著	310頁	978-4-908926-88-4	定価14,300円 (本体13,000円+税10%)
345. 最新馬来語教本	附馬日・日馬・小辞典 上原訓蔵 著	350頁	978-4-908926-89-1	定価15,400円 (本体14,000円+税10%)
346. 馬来語広文典	宇治武夫 著	500頁	978-4-908926-90-7	定価23,100円 (本体21,000円+税10%)
347. 標準マライ語文法	鶴岡一雄 著	550頁	978-4-908926-91-4	定価24,750円 (本体22,500円+税10%)

◆特に関連する研究領域
言語・外国語・日本語
日本語教育・戦時期間言語(国語)政策
社会・思想・文化・経済・商業
近代史・東南アジア・植民地

《アジア》からの発想は日本と世界を読み解く鍵

【アジア学叢書】既刊347巻 配本一覧

研究機関・図書館・研究室に全巻を！
必要巻は個人で！

広大な領域をカバー 地域・国・歴史・社会・政治・経済・法律・教育・思想・宗教・風俗・習慣・地誌・風土・交通・旅行
紀行・産業・物産・文化・科学・自然・環境・芸術・民族・戦争・近代・植民地・言語・ことば……

第1回 【人類学】9巻(1-9巻)[1996]00406-5	▷95,146円	第26回 【農業生活】8巻(197-204巻)[2009]00727-7	▷111,000円
第2回 【宗教】8巻(10-17巻)[1996]00407-3	▷97,087円	第27回 【中国を知るⅠ:人と風土】10巻(205-214巻)[2009]00741-3	▷125,000円
第3回 【近代史】6巻(18-23巻)[1997]00408-1	▷97,000円	第28回 【中国を知るⅡ:人と社会】9巻(215-223巻)[2010]00754-3	▷124,900円
第4回 【人類学2】6巻(24-29巻)[1997]00409-X	▷114,000円	第29回 【民俗】9巻(224-232巻)[2010]00769-7	▷109,300円
第5回 【東西交渉史】6巻(30-35巻)[1997]00410-3	▷101,000円	第30回 【物産】8巻(233-240巻)[2011]00790-1	▷138,000円
第6回 【中国思想(諸子学)】8巻(36-43巻)[1998]00411-1	▷107,000円	第31回 【宗教2】8巻(241-248巻)[2011]00821-2	▷128,000円
第7回 【経済・社会(中国ギルド)】8巻(44-51巻)[1998]00412-X	▷110,000円	第32回 【神話・伝説】6巻(249-254巻)[2012]00822-9	▷112,000円
第8回 【教育】9巻(52-60巻)[1998]00413-8	▷111,000円	第33回 【海運】7巻(255-261巻)[2012]01108-3	▷116,500円
第9回 【法制1(中国)】7巻(61-67巻)[1999]00414-6	▷136,000円	第34回 【アジア写真集Ⅲ】6巻(262-267巻)[2013]01115-1	▷122,000円
第10回 【演劇】10巻(68-77巻)[2000]00415-4	▷108,000円	第35回 【紀行】8巻(268-275巻)[2013]01124-3	▷118,000円
第11回 【法制2】8巻(78-85巻)[2001]00416-2	▷121,000円	第36回 【旅行案内記】6巻(276-281巻)[2014]01131-1	▷120,000円
第12回 【風俗・民族】7巻(86-92巻)[2002]00417-0	▷149,500円	第37回 【華僑】7巻(282-288巻)[2014]01139-7	▷118,000円
第13回 【映画・演芸】8巻(93-100巻)[2003]00418-9	▷100,500円	第38回 【民族】7巻(289-295巻)[2015]01147-2	▷112,000円
第14回 【南洋】12巻(101-112巻)[2004]00419-7	▷120,100円	第39回 【南洋2】5巻(296-300巻)[2015]01153-3	▷132,400円
第15回 【交通史】8巻(113-120巻)[2004]00420-0	▷128,000円	第40回 【アジアの海と島々】5巻(301-305巻)[2016]01159-5	▷117,500円
第16回 【産業・資源】11巻(121-131巻)[2004]00421-9	▷134,000円	第41回 【ビルマを知る】6巻(306-311巻)[2016]01166-3	▷110,000円
第17回 【地政学】9巻(132-140巻)[2005]00270-4	▷120,500円	第42回 【総目次】3巻(312-314巻)[2017]978-4-908926-11-2	▷73,000円
第18回 【森林資源】8巻(141-148巻)[2005]00279-8	▷135,000円	第43回 【南方事情(総目次)】6巻(315-320巻)[2018]978-4-908926-48-8	▷80,000円
第19回 【北方・南方森林資源】6巻(149-154巻)[2006]00286-0	▷125,000円	第44回 【台湾】4巻(321-324巻)[2018]978-4-908926-60-0	▷88,000円
第20回 【蒙古1】4巻(155-158巻)[2006]00291-7	▷111,000円	第45回 【エリア・山東】3巻(325-327巻)[2019]978-4-908926-68-6	▷78,000円
第21回 【地名】6巻(159-164巻)[2007]00507-5	▷115,000円	第46回 【エリア・長江】6巻(328-333巻)[2019.12]978-4-908926-75-4	▷90,000円
第22回 【芸術・文化】9巻(165-173巻)[2007]00527-3	▷123,000円	第47回 【言語(タイ語)】4巻(334-337巻)[2020.4]978-4-908926-80-0	▷105,000円
第23回 【民族誌】9巻(174-182巻)[2008]00545-7	▷137,000円	第48回 【食(中国)】5巻(338-342巻)[2020.10]978-4-908926-86-0	▷98,000円
第24回 【アジア写真集Ⅰ】8巻(183-190巻)[2008]00609-6	▷111,000円	第49回 【言語2(マレー語)】5巻(343-347巻)[2021.4]978-4-908926-92-1	▷112,500円
第25回 【アジア写真集Ⅱ】6巻(191-196巻)[2008]00620-1	▷120,000円		

*各巻分売可

「配本一覧」の表示価格は
本体(税別)です。

*収録内容見本進呈

*最新の在庫情報は下記・営業部へお問合せください。

(第1~311巻)発行:大空社 ■発売:大空社出版

以後続々刊行!

学術資料出版

大空社出版



www.ozorasha.co.jp

eigyo@ozorasha.co.jp
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461
東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)

お取扱い

343 馬来—日本語字典

パチー・ビン・ウォンチ、平岡閏造 著

A5判・910頁 978-4-908926-87-7

定価46,200円

(本体42,000円+税10%)

[復刻原本：南洋協会台湾支部 1935・昭和10年刊]

〈序 長屋順耳 (大正8年12月)〉 **馬来日本語の字書**としては平岡、パチー両氏共編の

此の著を以て嚆矢とする〔…〕此の著は英領並に蘭領に行はれて居る馬来語の異同をも弁ずるに力めてあつて此の点に於ては比儔するものがない。

〈序 中目覚 (大正11年7月 大阪外国語学校に於て)〉 支那語や英語を研究するの機関は我国に於ても相当に備はつて居る。然るに海峡植民地及蘭領印度七千余万の住民の常用する馬来語研究の機関に至りては遺憾に堪へぬ状態にある。馬来語を専門に教授する学校としては僅かに東京、大阪の二外国語学校あるのみで、又馬来語学修用の図書すら僅々十指を屈するに足る程で、**又語学研究者に取りて必要欠くべからざる辞書の如きに至りては未だ一冊も見るべきものがない。**

344 実用馬来語辞書

増淵佐平 著

A5判・310頁 978-4-908926-88-4

定価14,300円

(本体13,000円+税10%)

[復刻原本：花屋商会書籍部 1927・昭和2年刊]

〈序 井上雅二〉 **従来、巷間に見る此種の著書は、海峡植民地々方に行はるゝ馬来語を基本とするもの多く、蘭領方面に業を従はんとするものには、必ずしも適切と評し難き憾あり、**此時に当り、此の有用なる良著を公にせらる、蓋し其恵に浴する者、多かるべく、同君の此著ある、亦此辺に鑑みる所あつての事と信ずるのである。

〈自序〉 吾輩は大正9年春**英領馬来より蘭領に移り**契約苦力数百名の隊長として山奥の各種栽培業に従事した、当時尠からず**語学で泣かれた**、それは英領馬来語が粗暴で通ぜぬのみならず語学の用途及範囲が広く且つ重要なことに於てだ。例えば日常生活の材料即ち大根から菜葉に至るまで馬来語を以て書き之れを市場に送らねば餓ると云ふ有様である。一方作業上に於ても自由苦力を使ふ様に簡単に説明してふ訳けにゆかない、夫から下世話に至つては産婦のことから嬰兒の保育、夫婦喧嘩の中裁から月下氷人ともなり又た刃傷事件から窃盗事件に裁判事件と中々六ヶ敷い言葉を知つて居ラネバナラス。又官庁の報告文も或は自己の発行する許可書等一切馬来語に拠るのだから決して初学者には容易でない、兎に角**蘭領の公文書は和蘭語と馬来語に限られてあるのだから是非何れかに通曉せねばならぬ**が直接事業に当るものは何んと云つても第一に馬来語が肝要であることを悟り着任と同時に大に馬力をかけて馬来語座右録を作つた、それは**邦人先輩諸氏の著書欧米人の著書を参考とし加ふるに馬来人の高等教育ある教師を雇ひ練習したものを集めたのである。**

345 最新 馬来語教本

附 馬日・日馬・小辞典

上原訓蔵 著

A5判・350頁 978-4-908926-89-1

定価15,400円

(本体14,000円+税10%)

[復刻原本：新生堂 1942・昭和17年刊]

〈自序〉 最近しきりに、**日本語化政策が喧伝される**が、これこそ最も注意を要する仕事でなければならぬ。抑々南方圏の言語構成現状は、英語、和蘭語、支那語、マレー語等であるが、マレー語こそは、最も尊重に値する言語である。**マレー語は東印度、馬来半島一帯の土著語に最も近く、又同時に共通語である。**政府当局は占領地一帯の土著語を尊重する旨声明してゐるが、これこそ時宜を得た政策と云ふべく且インドネシア民族を尊重するものと云ふべきである。〔…〕マレー語は南方圏の共通語であるし、マレー語修得こそは南方開発の最大武器たる事は多言を要せずして明かであらう。

著者は大正2年東京外国語学校本科馬来語部に馬来語を学びてより茲に**30年、其の間南洋観光団の一通訳として、貿易会社の支店長として、母校教授及び拓殖大学講師として、神戸、京都の講習会及学校の講師として、現地に在ること12年余、教授に従事すること10年余、全く馬来語で終始してあると云つていゝ位**である。

(目次より) 第5編：会話—埠頭にて、取者と、挨拶及び訪問、買物、時間について、郵便局にて、停車場で、ホテルで、船会社で、電話の掛け方、朝食・昼食・晩餐、昼間の仕事、帰宅から就寝まで、借家探し、雇人の雇入れに就いて、氣候に就いて、脳炎にて 第6編：商業文—商習慣の概要、商業文記載要領、封筒の書き方、頭書及び結尾語、送荷案内の一例、店員出張案内状・見本送附案内状、注文状、着荷通知状、取引申込状、前便に対する返事、開店通知状、郵便局宛諸通知状、約束手形様式、前例記入済の様式、約束手形支払期限到来通知状

言語2(マレー語)編

宇治武夫 著

〔原書：南洋協会 1943・昭和18年刊〕

M	Man	〔547〕	Man	M
Manda, = <i>Mamanda</i>				
Mandab, 漢 (アラビア語)				
<i>Bebul-mandab</i> バベルマンデブ海峡				
Mandam, 酔ふ 眩暈を催す				
<i>Mendan khiali</i> 同上				
Mandang, 見る, 見詰める				
<i>Memandang</i> 同上				
<i>Timandang</i> 光景, 状況, 容貌, 面色				
Mandatsah, = <i>Bandarrah</i>				
Mandi, 入浴, 水浴, 入浴す, 水浴す				
<i>Batu mandi, Batu</i> の欄を見よ				
<i>Kamar mandi</i> 浴場 (ジャバ用語)				
<i>Tempat mandi</i> 同上 (馬来半島用語)				
<i>Mandikan, Memandikan</i> 沐浴せしむ				
Mandil, ナフキン, 肌掛 (アラビア語)				
Mandong, 牡鶏				
Mandul, 子供の出来ぬ, 實を結ばぬ, 不毛の				
<i>Bini yang mandul</i> 不産の妻				
Mandur, 苦力頭, マンドル (ポルトガル語より)				
Manek, 珠數玉, 珠數 (サンスクリット)				
<i>Sa-utas manek-manek</i> 一連の珠數				
Manera, 私, 私共, 不肯 (ジャバ用語)				
Manfaat, 利益, 儲け (アラビア語)				
Mangap, 口を開く, 欠伸す (ジャバ用語)				
Mangau, 呆れて口を開ける				
<i>Termangau-mangau</i> 同上				
Mangga, 椽果 (果物) (サンスクリット)				
<i>Kunehi mangga</i> (海老錠)				
<i>Sakii (Buah) mangga</i> 核痘				
Manggar, = <i>Mangkar</i>				

〔原書：南洋協会 1943・昭和18年刊〕

一 (目次より)
1) 馬来語独修ノ順序 1
2) 文法大要 9
3) 会話 55
挨拶及訪問、旅館—テ、食事、紹介、途上会話、農場簡易会話、简单ナル日用語集
4) 単語及文例 81
基数、序数、倍数及分数、時令、天文、地理、人類、動物、植物、金石、身体、家財道具、建物、飲食物、衣服、色、反意語、文例
5) 日馬単語 (アイウ順) 133
6) 馬日単語 (ABC順) 209-285

〔原書：南洋協会 1943・昭和18年刊〕

— 150 —
Soerat ini daripada toean saja doeloe. この手紙は何だ。
Soerat apa ini? Soerat keterangan boeat mentjari pekerjaan. 職業を探す爲めの證明書です。
Soerat keterangan boeat mentjari pekerjaan. 検べて見よう。
Nanti kita periksa. これは何文字だ。
Ini hoeroep apa? 旦那! アラビヤ文字で御座います。
Hoeroep Arab (djawi), toean. 和蘭人がどうしてアラビヤ文字か書けるか、お前は嘘を云つてゐるね。
Orang Belanda mana bisa toelis hoeroep djawi, kowé omong doesta. この手紙の中には戦争のことについて書いてある。
Dalam soerat ini soedah ditoelis fasal peperangan (perang). お前は確かに和蘭軍のスパイだ。
Kowé tentoe sepion pasoeakan Belanda. 早く眞實のことを云へ。
Lekas bilang apa jang benar. お前が自白しないならば嚴罰に處するぞ。
Kalau kowé tidak mengakoe, nanti kena hoekoem keras. 實はこの手紙を持つて行くためにバンドンへ行きたいのです。

1冊の本にも“歴史”がある。

著者・著述の来歴という“歴史”と、発刊されたその時代という“歴史”と。

序文のみならず、例文の片隅にも時代を映すことば・表現を多く見つけられる。

「言語(外国語)」研究は、文化・思想・宗教・社会・歴史・芸術・科学…あらゆる領域にまたがる基礎的研究である。

346 馬来語広文典

宇治武夫 著

A5判・500頁 978-4-908926-90-7

定価23,100円

(本体21,000円+税10%)

[原本：岡崎屋書店 1942・昭和17年刊 (3版)]

〈自序〉 私は大正11年4月東京外国語学校馬来語科に入学して、恩師上原訓蔵先生について馬来語の手ほどきを得、今日まで一時も馬来語とは離れた事がない程専ら馬来語研究に身も心も打込んで来た気儘者であるから、勢ひ講述の態度が不遜である様な事もあるかも知れないが、何卒寛大なる襟度を以て赦して頂き度いのである。特に書中先輩諸兄の見解に私が疑問と思ふ点は一々指適し、且つ私一流の独断的解釈をしたところも少なくなく、従来英書或は蘭書によつて馬来語文法を会得なされた人達には必ず不快の念を懐しめる事があるに違ひないが、之は所謂我田引水の独善的なものでなく、さうする事が馬来語に対して最も忠実であると言ふ確信のもとになした事であるから、此の点も予め諒解を得て置きたいと思ふ。中でも「**関係代名詞**」「**動詞の原動態、被動態、使動態**」「**接頭辞、接尾辞、接頭接尾辞の用法**」等は私が**最も力を入れたところ**であるし、又他の馬来語参考書には**未だ嘗て説明されてない文章篇を加へた**ので、幸ひ読者が私の意とするところを諒とせられ、本書を精読し下さるならば、馬来語の精神は勿論馬来語文法の要領も亦自ら理解され、確固たる或る何物かを把握する事が出来ると同時に、我が国策たる大東亜共栄圏確立の精神にも合致し、以てその願望に副ひ得るに相違ないと私は確信する。

(目次より) 〔一〕1) 馬来語の字体と綴字 2) 発音解説 3) 句点記号と大文字 〔二〕1) 馬来語の分類 2) 馬来語の運用 (名詞/代名詞/形容詞/動詞/副詞/感動詞/助辞) 〔三〕1) 馬来語の文章 (種類/成文/主語、述語、客語の省略) 2) 馬来語の冒頭語及び終結語

347 標準マライ語文法

鶴岡一雄 著

[原本：南洋協会 1943・昭和18年刊]

〈序 飯泉良三 (南洋協会常務理事)〉 同君は大正4年渡南、新嘉坡のRappa Private School に於てマライ語を先づ修学し、後スマトラ、パレンバン州パガル・アラムに於て標準マライ語を研鑽し、三井農園其の他に於ける貴重な苦心経験を経て前記パガル・アラムに阿蘇商店 (Toko Aso) を創設し、スマトラ、ベンクーレン市に支店を設け専ら**日本商品の輸入、卸、小売業に従事し**、更にまたベンクーレン州チョロップにも支店を増設第一線商業戦士として邦品販路の開拓拡張に努力其の業績洵に見るべきものがあつたのであるが、彼のABCD対日包囲陣結成され、資金凍結令発布に引続き蘭印政府の圧迫日を逐ふて甚だしく到底安んじてその業に就き得ざるに至りたる為め遂に涙を呑んで此の終生の事業と訣別去る昭和16年11月末祖国に引揚げ、翌17年4月多年の研究と体験とを以て郷里熊本市所在の**東洋語学専門学校教授**に就任南方進出の青年学徒教育に専念今日に至つて居るのである。

〈自序〉 今更云ふ迄も無く南洋一帯の通用語はマライ語であるが、既述の通り其の使用人口数が7千万余であると言ふ事実を見ただけでも、之が一つの立派な国語であり非常な重要性を持つものであると言ふことが容易に判断出来るのである。勿論今日迄既に幾多先覚者に依りて其の必要は叫ばれ、多くのマライ語に関する書籍等も出版せられて居るが、之は一般外国語の如く未だ充分普及せられて居らず、概して翻訳的なものが多く權威ある参考書等入手困難であつた。

(目次より) ①マライ語の発音と綴字 ②マライ語の類別 (会話、言葉、語根、接続語、形成語、重複語、熟語/言語の意味/句読点及び諸記号/形成語の音便上の変化) ③文章に就いて (文章成立の要素/文章の種類) ④品詞総説 ⑤名詞 (形成名詞の種類並に其の接頭語及接尾語/名詞の数・性・格) ⑥代名詞 (人称・再帰・指示・関係・疑問・不定代名詞) ⑦形容詞 (形成形容詞/比較) ⑧数詞 (形成数詞/不定数詞+加減乗除) ⑨動詞 (原動態、受動態、使動態/語根動詞・形成動詞) ⑩助動詞 (時・希望義務及依頼・可能許可及使役) ⑪副詞 (場所・時・否定・程度・状況・形式) ⑫前置詞 ⑬接続詞 ⑭感嘆詞 ⑮冒頭語及結尾語

437
馬来語の述語は動詞以外に名詞も代名詞も形容詞も副詞も述語としての作用をなす。
例
(1) Saja pergi. 私は行きます ……副詞
(2) Roemah ini besar. 此の家は大きい ……形容詞
(3) Ini roemah saja. 此れは私の家です ……名詞
(4) Itoe dia. あれか其の人 (彼) だ ……人稱代名詞
(5) Djalannya bagaimana? 其の方法はどうですか ……疑問代名詞
(6) Hawa itoe amat panasnja. その氣候は暑さがひどい ……副詞
即ち(2)の besar は Ini roemah besar (これは大きな家だ)の時に形容詞である。(3)の roemah は明かに名詞である。此の Ini roemah saja を英文で表はせば This is my house であつて、house は依然名詞であるから Ini is This is (これは……である)と解釋してゐる。これは大きな誤であつて、英文では其れ以外に適當な表現法が無いから止むを得ないのである。併し正しい解釋では「Ini は飽く迄も「これは」であつて「これは…である」では無い。換言すれば Ini roemah saja は This is my house であつて roemah saja は此の場合 is my house である。日本文法に於ける名詞の提示態と全く同じ表現法である。「酒は百薬の長」「花は櫻木」「人は武士」の「酒」「花」「人」は主語、「百薬の長」「櫻木」「武士」はそのまゝ述語となつてゐる。(6)の文章 Hawa itoe amat panasnja が假りに Hawa itoe amat panas (その氣候はひどく暑い)であれば(2)と同様形容詞 panas が述

*** 日本語・英語と比較した分かりやすい説明も**

A5判・550頁 978-4-908926-91-4
定価24,750円
(本体22,500円+税10%)

第一編 動詞の原義
Dia antar barang sebab orang minta. 彼は人が望んだので品物を運びました。
B. 以上の例は單に動詞を用ひて過去を示した だけであるが、動作の完了したことを示す爲めには soedah, habis, telah 等の語を助動詞として用ひるか又は過去の意味を有する 名詞を用ひる。
Dia soedah mati. 彼は死んでしまつた。
Dia soedah datang. 彼は來ました。
Makanan soedah habis. 食物は皆なくなりました。
Kota Batavia telah djatoeh ke tangan tentera Nippon. ベタビア市は日本軍の手に落ちてしまつた。
Saja soedah membajta soerat itoe. 私はその手紙を讀んでしまつた。
Apa engkau habis makan roti itoe? お前がそのパンを食べてしまつたのか。
Koeli itoe habis kerja. その苦力は仕事が尽んでしまつた。
Barang itoe habis djoel. その品物は賣りつくした。
Dia habis minoem kopi itoe. 彼はそのコーヒーを飲んでしまつた。
Si Mina habis djahit badjoe sendiri. ミナは自分の着物を縫ひ終つた。
Tentera Nippon telah reboet kota Bandoeng. 日本軍はバンドン市を奪取した。
Sahabat saja telah tammat sekolah. 私の友は學校を卒業した。
(326)

本パンフレットでは、
・引用の表記は読みやすさを考慮し一部変更した場合があります。
・頁見本はすべて縮小です。